

10. 二本松寺（あじさいの社）

（1）二本松寺の歴史

二本松寺は、天台宗羽黒山覚城院二本松寺と号し、本尊は秘仏薬師如来です。

平安時代の天長年間（824年）、慈覚大師円仁によって現在の潮来市茂木に創建されたと伝えられています。鎌倉時代建久2年（1191年）、島崎氏初代左衛門尉高幹公が島崎城築城の際、京都・比叡山を模して鬼門除けとする為、1ヘクタールの敷地を寄進、現在の地に移転開山しました。この時、境内を城郭とし島崎城の砦の役割をもたせています。爾来400年、島崎氏代々の祈願寺として栄え、天正19年（1591年）に滅亡した後も、佐竹氏、水戸徳川氏の信仰を得、歴代城主尊崇により、末寺25ヶ寺を統轄する本寺として隆盛を極めました。この間室町時代中興第一世静海上人（1457年歿）は、当地を修行道場の霊地として多くの青年僧の養成に努めました。

江戸時代、第11世光温上人は寛文3年（1663年）、書写仏を奉祀建立し修験道と病氣平癒を念ずる書写仏信仰を広めました。

元禄4年（1691年）、水戸光圀公は本堂と紅葉の聖經を寄進し、14石余の寺領と1万石の格式を与え、安永3年（1774年）には、檀頭大崎治郎兵衛氏が、更に寺領を寄進して、寺観も整いました。幕末から明治中期にかけて、神仏分離、無住と相俟って、寺運の衰退も余儀なくされ苦難の時代を迎えました。

二十世紀に入るや、幾多の戦乱が相次ぎ、いわゆる昭和の激動期となりました。この期にあっても、檀信徒の愛山護法の念厚く、復興に尽力、法燈は脈々と継承されてきました。

天台宗は、伝教大師（最澄）が、比叡山に草堂を結び、一刀三礼手彫りの薬師如来を安置し、一乗止観院（根本中堂）と称したことに始まります。

本尊薬師如来は桧材寄木造（玉眼入、漆箔）で、ほぼ等身（像 66.1cm、蓮台総高 135cm）の比較的大きい坐像です。本尊及び日光・月光両脇侍菩薩は秘仏で、開扉は「住職一代に一度限り」という厳しい口伝になっています。（茨城県指定文化財指定）

また、薬師如来とそれを説く經典を信仰するものを守護する十二人の夜叉神将である十二神将の画像（市指定文化財）があります。

天然記念物の「二本松寺の榎」は、水戸光圀公がお手植えされたといわれ、潮来市指定文化財に指定されています。元禄4年（1691年）「ふたもとの松」とそれを詠んだ「光圀の歌碑」、花の香りが甘い菩提樹など、また魔除けのお札の由来であり、日本で初めておみくじを作った人と言われている「元三大師の石碑」があります。



天台宗羽黒山覚城院二本松寺



木造薬師如来坐像（日光・月光両脇侍立像）

(2)『あじさい祭の社』

『二本松寺あじさいの社』は、40,000㎡の境内に100種類1万株のあじさいが咲き誇ります。あじさい祭は、6月上旬～6月下旬に開催されます。入山参拝券(境内施設整備金)は、400円で、中学生以下は無料です。駐車場は無料で、120台以上止められ、大型バス専用の駐車スペースもあります。

あじさいの社の入口を入ると一方通行の田んぼ道を進んで行きます。瓦チップが敷き詰められているのでハイヒールの方でも歩けます。左側の斜面一面にはあじさい咲き誇り、その素敵な風景に癒されること間違いなしです。そこを進むと入口の看板があり、いよいよこちらからがメインになります。ここからは勾配がきつくなりますが、途中の石のベンチで休みながら、「天使のほっぺ」、「ミカコ」、「十二単(じゅうにひとえ)」など種々の美しいあじさいを眺めれば疲れも吹き飛びます。途中展望エリアがあり、素敵な田園風景が眺められます。ところどころに休憩場所があるのも二本松寺あじさいの社の良いところです。高齢の方でも安心してあじさい鑑賞が楽しめます。

又 可愛いお地蔵さんが迎えてくれます。出口付近には、葉の裏に文字が書けるハガキの木があります。出口を抜けると、あじさい祭の期間中は売店やイベントなどもお楽しみいただけます。『二本松寺あじさいの社』では、一方通行になっているため、最後にお堂にお参りするようにコースが整備され、お参りが終わったら、こちらの階段を下ると駐車場に戻れます。

あじさいの社 順路案内図

